

高温に関する異常天候早期警戒情報に対応した農作物の管理対策

平成31年 4月18日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が発表した「高温に関する異常天候早期警戒情報（北陸地方）」によると、4月23日頃からの約1週間は、かなりの高温（7日平均地域平年差+2.1℃以上）が懸念されることから、水稲ハウスの温度管理等、農作物の管理に注意願います。

1 水稲

- (1) 浸種作業中の場合の高水温は、酸素不足により発芽不良や不揃いが発生しやすくなるので、浸種5日目以降は（温湯消毒の場合は浸種開始後から）こまめに水を更新し、10～15℃の水温を保つ。戸外での浸種は、特に温度管理に注意する。
- (2) 出芽期や緑化期に異常高温に遭遇すると白化苗やヤケ苗が発生しやすいので、温度管理に十分留意する。
- (3) ビニールハウス内は日射が強いと温度上昇が著しくなるので、は種後はハウス内の温度をこまめに確認する。
- (4) 緑化期の高温、過湿は細菌性病害の発病を助長するので、昼間の温度は20～25℃を目安にハウス内の温度管理を行う。出芽期や緑化期にハウス内の温度が30℃以上になる時は必ず換気する。

2 野菜

- (1) 施設野菜（トマト、きゅうり、いちごなど）
 - ア 天候に応じて細かな換気等を行い急激な温度変化を避ける。
 - イ 着果負担が生じているほ場では、ガク枯れや葉先枯れが発生し、その枯れた部分から灰色かび病や葉かび病などの病害が発生しやすくなるため、換気による適切な温度・湿度管理を徹底する。また、必要に応じ内張カーテンによる遮光等を行う。
病害が発生した場合は、葉かきや花びら取りや罹病葉を除去し、その後防除する。
 - ウ 育苗中の苗類は、25℃を目安に換気を行い、育苗ハウス内の温度を下げる。しおれが見られる場合は、寒冷紗等でハウス全体を遮光する。
 - エ いちごは、ハウス内温度を下げるため換気を強めるとともに、吸水量も増加するため、葉がしおれないよう1回のかん水時間を短くし、回数を多くする。
高温下では果実の品質が低下しやすいので、収穫後の取扱いを丁寧に行い、果実のオセ・スレの発生を防止する。
 - オ ハウスすいかでは、着果期となるため、交配後の高温に注意し、30～35℃を目安

に換気量を調整する。日中に葉のしおれ等が目立つ場合は、交配期であっても株元チューブにより若干のかん水を行う。

(2) 露地野菜

ア 定植期のほ場では、高温乾燥により葉焼けや活着遅れが懸念されるため、定植時にかん水をする。

なお、かん水設備がない場合は、定植時に植穴かん水を行う。

イ 移植栽培のえだまめでは、は種直後の高温による発芽不良に十分注意する。

また、高温・乾燥により培土が乾きやすくなることがあるので、こまめに観察して適宜かん水を行う。

ウ トンネルえだまめでは、高温による葉枯れに注意し、適時トンネル換気を行う。

エ 定植直後のトンネルすいか、特に密閉トンネルでは、高温による葉焼けに十分注意する。

① 葉が巻く場合は、トンネルの畦尻と畦頭に換気穴を設ける。

② 整枝栽培の場合は、通常より若干換気量を多くする。

(3) 病害虫

気温の上昇に伴い、施設ではコナジラミ類、ハダニ類などが増加する恐れがあり、また、露地でもアブラムシ類などの害虫が発生する恐れがあるので、発生状況に応じて適期に防除する。

3 果樹

(1) 日本なし「幸水」の開花予測情報 (<https://www.ari.pref.niigata.jp/yosoku/pear.html>) やおけさ柿の生育進度予測によれば現在の生育進度は平年並みとなっている。

(2) 今後の高温により生育速度が早まる可能性があるため、現地の生育進度を把握しながら、なしでは受粉作業が遅れないように花粉採取等の準備を計画的に進める。

また、摘らい、予備摘果、芽かきなどの管理作業は、生育ステージに合わせ適期に行う。

(3) ぶどう、日本なしなどの施設栽培は、ハウス内の高温による生育障害を招きやすいため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。

(4) 病害虫発生予察情報に留意し、生育ステージに応じた適切な病害虫防除に努める。

セイヨウナシ褐色斑点病の感染好適条件（15～25℃で8時間以上の湿潤）が今後整ってくるため、開花予測情報を参考に防除間隔を設定する。

なお、日中高温時の薬剤散布は、薬害を招く恐れがあるので避ける。

4 花き

(1) 球根養成は、土壌が極端に乾燥しないように適宜かん水する。特に砂丘畑など乾燥しやすいほ場では、スプリンクラーで定期的にかん水する。

- (2) 切り花及び鉢物などの施設栽培は、急激な温度上昇や高温による生育障害を招きやすいため、換気等による適切な温度・湿度管理を実施する。また、強日射による葉焼けの発生を防ぐため、遮光資材を掛けるなど適切に管理する。
- (3) 気温の上昇にともなってアブラムシ等の害虫が発生しやすくなるので、発生状況に注意して適切な防除を行う。